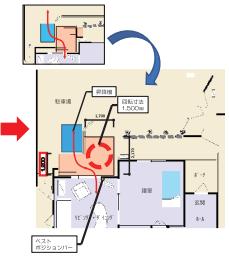


Before



Renovation Plan

Yさん（80歳代・男性）は数年前にパキンソン病と診断され、発熱を機に軽度認知症に。リフォームの依頼が来た時は要介護3で、生活行為全般に、程度の差はあれどもかの介助が必要な状態だった。特に困っていたのが、外出の際玄関から駐車場に出るまでに9つの段差があること。デイサービスを利用していたYさんは、送迎車まで必ず妻の支えが必要で、靴を履き始めてから駐車場までに約12分もの時間を要していた。すでにYさんの担当ケアマネジャーからは「段差部分に連続手すりを設置する」というケアプランが提案されていた。だが、大澄さんの頭に浮かんだのは、「本当に手すり案が最適なのだろうか」という疑問だった。手すりを付けても段差を越えなければならず、移動距離も時間も変わらない上、デイサービスを利用するYさんは最近体調も意欲も低下傾向があり、デイにも行きたがらなくなっている。Yさんは最近車を待たせてしまうことへ

競い合う、年に1度の社内コンテストだ。2001年から始まり、毎年開催されている。今回はパニックエイジフリー近畿リフォーム課の住環境プランナー大澄一輝さんが手がけた事例を紹介する。

Yさんは数年前にパキンソン病と診断され、発熱を機に軽度認知症に。リフォームの依頼が来た時は要介護3で、生活行為全般に、程度の差はあれどもかの介助が必要な状態だった。特に困っていたのが、外出の際玄関から駐車場に出るまでに9つの段差があること。デイサービスを利用していたYさんは、送迎車まで必ず妻の支えが必要で、靴を履き始めてから駐車場までに約12分もの時間を要していた。すでにYさんの担当ケアマネジャーからは「段差部分に連続手すりを設置する」というケアプランが提案されていた。だが、大澄さんの頭に浮かんだのは、「本当に手すり案が最適なのだろうか」という疑問だった。手すりを付けても段差を越えなければならず、移動距離も時間も変わらない上、デイサービスを利用するYさんは最近体調も意欲も低下傾向があり、デイにも行きたがらなくなっている。Yさんは最近車を待たせてしまうことへ

「P-1グランプリ」。それはリフォーム実績年間2万件以上を誇るパニックエイジフリーの社員が、「プランナーとしての人間力」「プランニング力」「プレゼン力」を競い合う、年に1度の社内コンテストだ。2001年から始まり、毎年開催されている。今回はパニックエイジフリー近畿リフォーム課の住環境プランナー大澄一輝さんが手がけた事例を紹介する。

Yさんは数年前にパキンソン病と診断され、発熱を機に軽度認知症に。リフォームの依頼が来た時は要介護3で、生活行為全般に、程度の差はあれどもかの介助が必要な状態だった。特に困っていたのが、外出の際玄関から駐車場に出るまでに9つの段差があること。デイサービスを利用していたYさんは、送迎車まで必ず妻の支えが必要で、靴を履き始めてから駐車場までに約12分もの時間を要していた。すでにYさんの担当ケアマネジャーからは「段差部分に連続手すりを設置する」というケアプランが提案されていた。だが、大澄さんの頭に浮かんだのは、「本当に手すり案が最適なのだろうか」という疑問だった。手すりを付けても段差を越えなければならず、移動距離も時間も変わらない上、デイサービスを利用するYさんは最近体調も意欲も低下傾向があり、デイにも行きたがらなくなっている。Yさんは最近車を待たせてしまうことへ



大澄さん

QOLリフォームよりすぐり

8

広告

『山をこえ川をこえ』——段差解消リフトの導入で家の出入りが安全・安心

黒田能隆統括部長は、「外出が大変でおっくうになると、地域交流も減り、社会参加がしにくくなりがちです。今回のプランは、動線と段差解消、そして時間に着目して、結果として、お客様のQOLしが向上した良い事例」と評価した。

Yさんは数年前にパキンソン病と診断され、発熱を機に軽度認知症に。リフォームの依頼が来た時は要介護3で、生活行為全般に、程度の差はあれどもかの介助が必要な状態だった。特に困っていたのが、外出の際玄関から駐車場に出るまでに9つの段差があること。デイサービスを利用していたYさんは、送迎車まで必ず妻の支えが必要で、靴を履き始めてから駐車場までに約12分もの時間を要していた。すでにYさんの担当ケアマネジャーからは「段差部分に連続手すりを設置する」というケアプランが提案されていた。だが、大澄さんの頭に浮かんだのは、「本当に手すり案が最適なのだろうか」という疑問だった。手すりを付けても段差を越えなければならず、移動距離も時間も変わらない上、デイサービスを利用するYさんは最近体調も意欲も低下傾向があり、デイにも行きたがらなくなっている。Yさんは最近車を待たせてしまうことへ

Yさんは数年前にパキンソン病と診断され、発熱を機に軽度認知症に。リフォームの依頼が来た時は要介護3で、生活行為全般に、程度の差はあれどもかの介助が必要な状態だった。特に困っていたのが、外出の際玄関から駐車場に出るまでに9つの段差があること。デイサービスを利用していたYさんは、送迎車まで必ず妻の支えが必要で、靴を履き始めてから駐車場までに約12分もの時間を要していた。すでにYさんの担当ケアマネジャーからは「段差部分に連続手すりを設置する」というケアプランが提案されていた。だが、大澄さんの頭に浮かんだのは、「本当に手すり案が最適なのだろうか」という疑問だった。手すりを付けても段差を越えなければならず、移動距離も時間も変わらない上、デイサービスを利用するYさんは最近体調も意欲も低下傾向があり、デイにも行きたがらなくなっている。Yさんは最近車を待たせてしまうことへ



改修後



改修前



くらしの中で「できる」ことを増やし、そして、次に「やりたい」ことに向かっていただきたい、そんな思いをシンボルマークにしました。パニックの介護用品で「心身が前向きに、その先に歩みます」。私らしくいきいきとしたくらしを実現できる社会を創ることそれが私たちの存在意義です。



パナソニック エイジフリー
エイジフリーショップ
お問い合わせ先：営業企画部 06-6908-8122

